

しまぶくみちひろ  
島袋道浩パフォーマンス  
『アメリカ』

平成6年度のパフォーマンス企画のひとつとして、11月3日から6日までの4日間、島袋道浩氏による『アメリカ』を美術館アプローチプラザで開催いたしました。

島袋氏は「出会い」をテーマのひとつとして表現活動を行っているアーティストです。見知らぬ人と出会い、相手を受け入れようとする態度でいること、この極めて個人的な行為は、とても小さなことではあるけれども、現在の社会が抱えているさまざまな問題を解決する唯一の方法であるように思います。今回の企画につけられた『アメリカ』というタイトルには、多民族国家であるアメリカ合衆国の理想の世界を自分自身で表現したいという島袋氏自身の願いが込められていました。

「パフォーマンス」に参加するのは、実際の来館者です。「作品を見るという同じ目的でやって来るけれども、直接的には触れ合うことのな

い人々、それらの人々がくつろぎ、触れ合うことのできる場所をつくることはできないだろうか」そのような思いが、企画から実行までにおよそ1年以上に及ぶ時間をかけて徐々に固まっていきました。

実際には美術館アプローチプラザに、カフェテリアをつくりだすことになりました。11月3日（文化の日にちなみ全館入場無料）から6日までの秋の行楽シーズン真っ只中の連休にあわせて開催したこともあり、連日多くの人々のご来場をいただきました。なかには、訪れた人が合唱をはじめるといった光景も見られ、『アメリカ』の目的に近づくことができたように思います。

運営にあたっては、館内のカフェテリアを営業している朝日コーヒーハウスにご協力をいただきました。また、関西から同行されたスタッフのみなさんやいろいろな形で協力をいただいた多くの広島の方々にもこの場を借りてお礼申し上げます。

今回の阪神大震災では、神戸市垂水区在住の

島袋氏の安否が気遣われましたが、ご家族ともにご無事で、ご本人は現在、『アメリカ』でみせたその精神さながらに、「震災で失ったものを取り戻そうとすることと同時に、震災直後にあった人間の強さ・優しさを維持しようとする」と大切にしたい、と神戸でさまざまな活動に取り組んでおられます。



アプローチプラザの光景がこんなふうになりました。真中でコーヒーを運んでいるのが島袋道浩氏です。白いバルーンは金魚の形につくったもので、風のないときは青空を泳ぎまわりました。

（撮影＝杉原秀樹）